編集後記

先日，中国，合肥のEASTトカマクから研究者が来所された．プラズマ実験では，最大0.5 MAまでの放電を行ったとのことである．中国人研究者の努力と技術，そして何よりもマンパワー(量・質とも)と，先を行く研究機関(GAやPPPL)の知識やK/Hを融合して実験を行っているので，これだけの短期間で建設～プラズマ実験成功に至っているのだろう．春節（旧正月）までに実験を終了しなければいけないというのも，大きかったそうだが．

さて，一連の話で感じたのは，「学ぶ」ということ．私の専門の超伝導分野について言うと，彼らにとってはじめての(もちろん，世界初であるのだから)，全超伝導トカマクを建設するにあたり，金銭と言う理由が大きかったそうだが，超伝導素線以外はすべて純国産だそうである．ここで，超伝導導体はロシアのメーカ，導体間接続はMIT，完成した導体の性能評価はスイスCRPPと，いずれもその分野の第一人者とつながっている．もちろん，日本の研究機関とも多くの議論をしたと聞いている．禅の言葉に，「正しい師を選べ．間違った師ならば，学ばないほうがましだ．」という言葉あるが，彼らは相手を選び，技術を高めていった．この相手は，共同研究・開発パートナーとして自分たちを成功へと導いてくれるか．

私は，“多様性”の中で，どんな学びをするかについて考えてしまった．日本は，強磁場大型マグネットの開発という意味で，ITERのみならず，JT-60SAという２つのチャンスを有する．一方，この何年かの間に，多くの大学の先生が強磁場マグネット研究から，液体窒素温度の高温超伝導応用研究（～低磁場研究）に移っていかれた．また，過去の強磁場大型マグネット開発にかかわられた先生方や技術者で，リタイヤされたり，他界された方もいる．私自身が，今，学ばなくてはと思った．

彼らが帰国する前日，電気屋さんにつきあわされた．箱の中身を直に確認して，「これはMade in Japanではないからイヤだ．」なんて言っていたけれども，私の気持ちの中ではMade in Chinaおそるべしである．さあ，昨日お店に入荷した中国語のマニュアルを早く彼らに送ってあげなくちゃ．私からの，たくさんのEAST超伝導マグネットシステムに関する質問と一緒に．　（妹尾和威）

プラズマ・核融合学会役員

会長	高村　秀一	副会長	藤原　正巳　松田慎三郎	常務理事	岡村　昇一（総務委員長）
理事	秋山　秀典		今井　剛		奥野　健二（プログラム委員長）
	尾崎　章（財務委員長）		際本　泰士（広告委員長）		佐藤浩之助（企画委員長）
	佐野　史道		田中　和夫（編集委員長）		畠山　力三
	畑山　明聖		浜口　智志（出版委員長）		本島　修
	森　雅博（広報委員長）		吉田　善章		
監事	長谷川　満		藤山　寛		

プラズマ・核融合学会誌編集委員会

編集委員長・チーフエディター　田中和夫（阪大）
エディター　図子秀樹(九大)，関　昌弘(RIST)，田中雅慶(九大)，福山　淳(京大)，村上匡且(阪大)，行村　建(同志社大)
編集委員　荒巻光利(名大院工)，飯塚　哲(東北大院工)，石黒静児(核融合研)，岩尾　徹(武蔵工大)，岩切宏友(九大応力研)，上田良夫(阪大院工)，越智義浩(原子力機構)，片沼伊佐夫(筑波大プラズマ)，門　信一郎(東大高温プラズマ)，加藤太治(核融合研)，北島純男(東北大院工)，北野勝久(阪大院工)，小口治久(産総研)，佐伯紘一(静大理)，重森啓介(阪大レーザー研)，洲　亘(原子力機構)，妹尾和威(核融合研)，高橋栄一(産総研)，高山有道(核融合研)，谷口和成(京都教育大)，永岡賢一(核融合研)，長崎百伸(京大エネ理研)，野崎智洋(東工大院)，平松美根男(名城大理工)，増崎　貴(核融合研)，山内有二(北大院工)，山本　巧(原子力機構)

乱丁・落丁本は，ご面倒ですが学会編集委員会宛ご送付ください．送料当方負担にてお取り替えいたします．

プラズマ・核融合学会誌第83巻第２号

編集・発行
〒464-0075 名古屋市千種区内山３丁目1-1　４階
社団法人 プラズマ・核融合学会 編集委員会
Tel. 052-735-3185　Fax. 052-735-3485
E-mail: plasma@jspf.or.jp　URL: http://www.jspf.or.jp/

印　刷　株式会社荒川印刷
2007年（平成19年）２月25日
定価1,365円(本体1,300円)

本誌に掲載された寄稿等の著作権は（社）プラズマ・核融合学会が所有しています．

編集委員会開催日について　当学会誌の編集委員会は原則として，毎月第１火曜日に開かれています．但し，都合により変更になる場合があります．

NII-Electronic Library Service